

西春の葉

福岡県立西田川高等学校図書館

令和6年7月 発行

☆7月10日（水）から、夏休み期間の長期貸し出しを行います。

返却期限は8月21日（水）になります。

貸出冊数についても、通常3冊までを10冊に増やします。

時間の余裕がある夏休みに、読書も楽しんでください。

☆夏休み期間の図書館開館は、

7月24日（水）～26日（金）、7月30日（火）～8月2日（金）、

8月20日（火）を予定しています。

開館時間は9時～16時45分の予定ですが、急に変更となる場合も

ありますので、図書館前の掲示を確認してください。

最近図書館に入った本を紹介します。図書館に来て、実際に本を手にとってみてください。

『成瀬は信じた道をいく』 宮島 未奈[著] 新潮社[刊]

前作『成瀬は天下を取りにいく』の続編。唯一無二の主人公・成瀬あかりが、今回も様々な人々に影響を与えながら、我が道を突き進む。

『変な家 2 11の間取り図』 雨穴[著] 飛鳥新社[刊]

映画化もされた前作『変な家』のパート2。

『すべての恋が終わるとしても 140字の恋の話』 『すべての恋が終わるとしても 140字のさよならの話』

『すべての恋が終わるとしても 140字の忘れられない恋』 冬野 夜空[著] スターツ出版[刊]

ベストセラーとなった“30秒で泣ける”恋の超短編小説集シリーズ。

『水車小屋のネネ』 津村 記久子[著] 毎日新聞出版[刊]

2024本屋大賞投票2位の作品。親から逃れた姉妹や水車小屋の番人の青年の、希望と再生の物語。

『存在のすべてを』 塩田 武士[著] 朝日新聞出版[刊]

2024本屋大賞投票3位の作品。30年前の二児同時誘拐事件の真相に迫ろうとする新聞記者だが・・・。

『クスノキの女神』 東野 圭吾[著] 実業之日本社[刊]

不思議な力を持つクスノキとその番人の元を訪れる人々の物語。前作『クスノキの番人』も、図書館にあります。

『プラスチック』 井上 夢人[著] 講談社文庫

2024本屋大賞“超発掘本”として紹介された、約30年前に出版された異色ホラー小説。

『ようこそ、ヒュナム洞書店へ』 ファン・ボルム[著] 集英社[刊]

2024本屋大賞翻訳小説部門1位の作品。心に傷を持つ新米女性書店主と書店を訪れる人々との心温まる物語。

『優等生サバイバル 青春を生き抜く13の物語』 ファン・ヨンミ[著] 評論社[刊]

1日24時間。やらなきゃいけない事や考えなきゃいけない事がいっぱい。“優等生”のジュノが見つけた法則は？

裏面もあります。



『冬期限定ボンボンショコラ事件』 米澤 穂信[著] 創元推理文庫

「小市民」を志す高3の小嶋くんは、ひき逃げにあい足を骨折し、大学受験が困難になってしまう。「小市民」シリーズ最大の事件を描く最新刊。シリーズの他の作品は図書館にあります。

『ピブリア古書堂の事件手帖4 扉子たちと継がれる道』 三上 延[著] メディアワークス文庫

古書にまつわる謎を解くミステリーシリーズの最新刊。3つの時代をまたぐある文豪の古書の謎とは？

『海神の娘2 黄金の花嫁と滅びの曲』 白川 紺子[著] 講談社タイガ文庫

【情報】

『生成 AI 推し技大全 ChatGPT+主要AI活用アイデア100選』 田口 和裕 他[著] インプレス[刊]

ビジネス、趣味、生活で役に立つような使い道を紹介。

【地理】

『地球の歩き方 北九州市』 地球の歩き方[編集・発行]

『ビジュアルでわかる日本 データに隠された真実』 宮路 秀作[監修] SBクリエイティブ[刊]

身近な話題から社会問題に至るまで、45のテーマで日本を可視化。

【経済】

『20歳の自分に教えた経済のきほん』 池上 明[著] SBクリエイティブ[刊]

お金と世の中のしくみをわかりやすく解説。

【進路・仕事】

『高校生と考える人生の進路相談 桐光学園大学訪問授業』 桐光学園中学校・高等学校[編] 左右社[刊]

「正解のない世界で、君たちはどう進むか？」様々な分野の講師18名が伝えるメッセージ。

『ビジネスマナーの解剖図鑑(第2版)』 北條 久美子[著] エクスナレッジ[刊]

シンプルなイラストとわかりやすい解説で、社会人必須のマナーを学べる本。

『おしごとそうだんセンター』 ヨシタケ シンスケ[著] エクスナレッジ[刊]

地球に不時着し、仕事を探す宇宙人と職業相談所のスタッフが考える「おしごと」とは？

【動物】

『私の職場はサバンナです！』 太田 ゆか[著] 河出書房新社[刊]

南アフリカ政府公認・唯一の日本人女性サファリガイドが、サバンナの動物たちの生態や環境保護の最前線を語る。

【言語】

『世にもあいまいなことばの秘密』 川添 愛[著] 筑摩書房[刊]

読み方次第で意味が変わってしまう言葉。そのあいまいさの特徴から言葉の不思議に迫る。

『ゼロから12ヶ国語マスターした私の最強の外国語習得法』 Kazu Languages[著] SBクリエイティブ[刊]

生まれも育ちも日本の著者が、ほぼ独学で12カ国語を5年で習得した外国語学習最短ルートを教える。

【新潮文庫 「高校生に読んでほしい50冊 2024」より】

【哲学】

『暇と退屈の倫理学』 國分 功一郎[著]

「暇」とは何か？人間はいつから「退屈」しているのか？東大や京大で一番読まれた、“日本一”読みやすい哲学入門。

【歴史】

『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』 加藤 陽子[著]

明治以来四つの対外戦争を戦った日本。その戦争への参戦を判断した論理を支えたのは何だったのか？

【社会科学】

『受験脳の作り方』 池谷 裕二[著]

脳科学研究者による、脳の働きのポイントを正しく理解して行う受験勉強の方法とは？

『ありがとうもごめんなさいもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』 奥野 克巳[著]

ボルネオ島の森で暮らす少数民族プナンとの生活により、常識をひっくり返された著者が考えた事とは？

【数学】

『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン[著]

約300年間数学者たちを悩ませてきた、数学界最大の難問へ挑戦する数学者たちの苦闘を描くノンフィクション。

【自然環境】

『センス・オブ・ワンダー』 レイチェル・カーソン[著]

自然こそ最高のエンターテインメント。環境保護の先駆けとなった女性生物学者が遺した世界的ベストセラー。

【詩】

『空が青いから白をえらんだのです 奈良少年刑務所詩集』 寮 美千子[編]

少年刑務所の受刑者たちが心を開き、その閉ざされた思いを表現した57編の詩を紹介。

「高校生に読んでほしい50冊」から、他に日本の小説等も入れています。図書館に来て手に取ってみてください。夏休みに、ふだんあまり読まないジャンルの本に挑戦してみるのも良いのでは？

